

令和4年度第1回基山町総合教育会議

(要点筆記)

日 時：令和4年4月22日（金）午前11時00分～午後0時10分

場 所：基山町役場 4階大会議室

出席委員：6人

松田町長、柴田教育長、田口委員、津川委員、福永委員、天野委員

欠席委員：0人

事務局：16人

企画政策課：亀山課長、原係長、伊藤主任

教育学習課：今泉課長、寺崎係長、音成教育指導主事、水田教育指導主事

総務課：熊本課長

住民課：毛利課長

健康増進課：藤田課長

福祉課：吉田課長、中牟田室長

こども課：山本課長

産業振興課：大石係長

まちづくり課：井上課長

定住促進課：山田課長

傍聴者：1人

1 開会

2 町長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議題

(1) 基山町教育大綱第3期の策定について

(2) 小中学生の新型コロナワクチン接種について

(3) 教育行政全般に関する懇談について

・小規模特認校制度の状況について

・若基小学校での無料塾について

・GIGAスクール構想の進捗について

・通学路の安全点検について

5 その他

6 閉会

1 開会

(事務局により開会。)

2 町長あいさつ

子育て支援と教育は裏表の関係にある。基山町に必要なのは教育の量的な部分と質的な部分とつながりの部分の大きく3つである。1つ目の量的な部分については、最近の児童・生徒数の増加による基山小学校と若基小学校の児童数のバランスの不均衡に起因する、基山小学校の教室不足及び若基小学校の空き教室の活用等に取り組むこと。2つ目の質的な部分については、ICTを活用した情報の活用や特別支援学級に関わる問題等のさまざまな問題を解決すること。3つ目のつながりの部分については、地域とのつながり、他分野とのつながり及び歴史的なつながりがある。この3つの考え方を整理していけば基山町の教育は更によくなる。

令和4年4月からは18歳以下の子どもの医療費完全無料化等をはじめとした新たな子育て支援策を打ち出している。日本一の子育て支援の町及び日本一の教育の町を目標に頑張っていきたい。そのような中で本会議では基山町教育大綱第3期の策定について話があると思うが、まずは皆さまのお考えを伺い、今回の会議をキックオフミーティングにしたい。

教育委員の皆さまには、日頃のご活動や議論を通じて様々なアドバイスをいただき、基山町の教育が良くなっていることに感謝している。今後も日本一の教育の町を目標に皆さまと頑張っていきたい。

3 教育長あいさつ

鳥栖市等近隣の市町村では小中学生の子どもの数が減っているところもある中、基山町の小中学生の子どもの数はこの2年間で増加傾向にある。それは基山町が実施している諸施策のおかげであり、教育委員会としても頑張っていきたいが、教育委員会だけでは解決できない問題もあるので、GIGAスクール構想の推進や学校規模の適正化等の重点施策について、関係課と連携をとって取り組んでいきたい。小規模特認校制度の推進及び周知、地域とのつながりの強化、デジタル化の推進、基山小学校の職員室の拡張と若基小学校の中庭の人工芝化等の工事関係並びに文化財関係についてもきちんと取り組んでいきたい。

町長が議長となり進行

4 議題

(1) 基山町教育大綱第3期の策定について

(議長)

それでは、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(事務局より資料を説明。)

(議長)

基山町教育大綱第3期は、国の教育振興基本計画の閣議決定が令和5年7月頃なので、それに合わせて策定したいと考えている。資料の6ページの右側の町が取り組むべき事項に基山町教育大綱第1期・第2期でも取り上げてはいるが、今後ますます町として重要になってくる事項をたたき台として挙げている。この点についてご意見を伺いたい。

(委員)

資料6ページの左側に記載してあるSociety5.0やウェルビーイングについて、多くの場面で耳にするが、現在世界をとりまく環境の中で外せないキーワードはSDGs、つまりサステナブルな社会を目指すこと、持続可能な社会を目指すことが基本になるべきと考える。国も脱炭素を目指しており、社会が根本的に変わろうとしているときなので、基山町もサステナブルな社会を目指すべきであり、教育面においてもこの考えを取り入れるべきだ。

(議長)

環境基本計画の中での環境教育の位置づけや、SDGsのとらえ方等についてはどうなっているのか。

(事務局)

環境基本計画は、生活環境、循環型社会、自然環境及び地球温暖化の4つの柱でまとめているが、教育については4つの柱のすべてに関わるため、それぞれに具体的な取組を明記している。SDGsについても環境と切り離せるものではなく、SDGsの17の目標のうち、12の目標が環境基本計画に該当している。

(議長)

資料6ページの左側の超スマート社会(Society5.0)及びウェルビーイングについては国の考えなので、町としては右側の町が取り組むべき事項についてどうまとめていくかを考えていく。その中で環境教育やSDGsはキーワードになりえるので、事務局は次回の総合教育会議でどうまとめ、どう項目立てするか提案すること。

他にご意見はないでしょうか。

(委員)

総合教育会議において、今後基山町が取り組んでいくことだけではなく、これまでに取り組んできたことを具体的な例を含めて知りたい。それを知ることによって次のステップとして、新しい提案ができる。また、目次の並び順が大事な順ではないと思うが、基山町として何が一番重点を置いて教育を考えているのかということ。「基山らしさ」としてもっと押し出してもよいのではないか。

(議長)

2つ目のご意見については、骨太の意見でこれまではあまり議論されてこなかった論点であり、事務局でよく検討してもらい、次回の総合教育会議で検討結果を示してもらいたい。1つ目のご意見については、毎年度教育委員会で基山町教育大綱に基づいた基山町教育プランを策定しているが、基山町教育プランの結果について、基山町教育大綱第2期の期間中だけでも簡単に教育委員会で取りまとめてもらいたい。

(事務局)

基山町教育プランについては、毎年度評価を取りまとめて議会で報告しているので、教育委員にも共有していくようにする。基山町教育大綱第2期期間での総括はまだ実施していないので、教育委員会内で検討したい。

(議長)

基山町教育大綱第2期の計画に基づいたものをポイントを絞ってまとめてもらいたい。

他にご意見はないでしょうか。

(委員)

特別支援学級を希望する保護者及び必要とする子どもが増えている。通常学級を受け持っていた先生が翌年度に特別支援学級を受け持つこともあると聞いている。そうした特別支援学級の対応にあたる先生方がどのような研修や勉強をされているのか、きちんと支援や教育を受ける機会があるかお伺いしたい。また、子どもを特別支援学級に通わせる保護者にも支援や教育を受ける機会があるかお伺いしたい。

(議長)

この件について、教育長から説明をお願いします。

(教育長)

特別支援学級について年々その数が増えている。昔と違って今は、どの先生も通常学級だけでなく、特別支援学級も受け持てる準備が必要である。研修面では、去年から特別支援に対する地域のコーディネーターが鳥栖・基山地区に配置され、月に1回程度、そのコーディネーターを招いて基山町役場内で研修を行っている。研修の対象を特別支援学級の担任の先生方のみに行っているため、その他の先生方も研修を受けられる体制を考えていく必要がある。県においても、特別支援に関する研修会が行われており、特別支援に対する免許を持っていなくても特別支援学級を受け持てる体制を更に充実させていかななくてはならない。

(議長)

特別支援学級に通う子どもの多くは放課後デイサービスに通っているが、学童に通っている子どももいる。通常学級に通う子どもの中にも夕方頃になると精神的なバランス

を崩す子どももいるが、そのような子どもも学童に通っている。学童においてそのような子どもに対するケアができるような体制を数年前から整えている。また、基山町では4歳児就学準備業務を行うことで、その検査結果に基づくフォローアップ事業を実施しており、成果も出てきていると考えている。さらに、家庭に対する支援として、子育て包括支援センターにおいて、子どもに対する教育に悩む保護者に対する相談も受けている。この点について、担当課長から詳しい説明をお願いします。

(事務局)

乳幼児の子どもの発達について不安がある保護者に対しては、2カ月に一回開催されるすくすく相談会にお越しいただくよう案内をしている。また、日々御相談がある保護者に対しては保健師が対応し、必要に応じて専門機関を紹介している。

(議長)

乳幼児についてではなく小学生についての相談は多いか。

(事務局)

小学生あたりの年代についての相談は今現在多くはない。

(議長)

産後うつだけでなく、教育うつが後々話題になってくると思うので、引き続き対応をお願いしたい。また、こども課の検査と健康増進課の健診の連携は今後もお願いしたい。基山町はいろいろなプロジェクトに臨床心理士を起用しており、そこは頑張っているところである。ただ、子どもの福祉の分野についてどれだけ支援策を充実させてもしすぎることはないので、今後も取り組んでいかななくてはならない。

他にご意見はないでしょうか。

(委員)

GIGAスクール構想について、基山町はいち早く児童生徒一人一台、端末を整備しているが、保護者の中でも問題点や活用方法について話題が挙がっている。各学年にあわせた使用方法をさらに検討していくことで、基山町の特色にしていきたい。また、ICTを用いた情報化いじめについても、保護者に対する教育を行う等、対策を強化していく必要がある。

(議長)

この件について、教育長から説明をお願いします。

(教育長)

GIGAスクール構想は、昨年からはじめて今後も基山町の教育行政の中で大きな柱になっていくだろう。学習面だけではなく、保護者と学校の連携ツールといったデジタル化についても基山町教育大綱第3期に反映させてもらいたい。基山町教育大綱の大枠に

ついて、平成 10 年代に基山町の教育方針で定めた大枠からほとんど変わらないので、基山町教育大綱第 3 期を策定するにあたっては、柱となる大枠について他の市町を参考にしながら、見直してもよいのではないかと。

(議長)

基山町教育大綱第 3 期の策定については、本会議での議論をもとに準備をすすめてもらいたい。

(2) 小中学生の新型コロナワクチン接種について

(議長)

それでは、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(事務局より資料を説明。)

(議長)

それでは、今の説明に対して質問はないでしょうか。

(委員)

新型コロナワクチン接種を受けた小中学生の副反応はどの程度であったかを把握しているのか。

(議長)

それに対して事務局から説明をお願いします。

(事務局)

副反応については、電話等で報告を受けることで把握をしている。副反応として発熱と接種部位の痛みがあると報告を受けているが、接種された全員について報告を受けている訳ではない。軽度の副反応で済んでいる方が多い印象である。

(委員)

小中学生の新型コロナワクチン接種が進んでいない理由は、小中学生は新型コロナウイルス感染症に感染しても重症化しないから打つ必要がないと考える保護者がいるためと、万が一、副反応が強い場合、命に関わる可能性があるかと危惧している保護者がいるためである。そのような不安を払拭するために、接種券を発送するときに、接種後のケアについて書かれた書類を同封することで、新型コロナワクチン接種を推奨する工夫が必要ではないかと。

(議長)

それに対して事務局から説明をお願いします。

(事務局)

副反応に対するケアについては、接種券の発送時に副反応についての説明書類を同封しているが、まだまだ周知が足りないと感じている。

(委員)

副反応に対するケアについて、目にとまりやすい方法を検討していただきたい。家庭内で新型コロナウイルス感染症に感染又は濃厚接触者になると会社等において仕事が回らなくなってしまう。そうした状況を阻止するために、子どもの新型コロナワクチン接種が重要である。

(議長)

小児の新型コロナワクチン接種について将来に渡って絶対的に大丈夫とは言い切れないので難しい状況もあるが、新型コロナワクチン接種率を上げるべくできる範囲で取組を実施していきたい。

(委員)

議題(1)の資料6ページの右側の町が取り組むべき事項の1つに、「新型コロナウイルス感染症を踏まえた新しい学校教育の姿」とあるが、新型コロナウイルス感染症の感染症レベルが引き下げられる可能性があり、「踏まえる」というよりも「乗り越える」という考え方が適切だと考える。

(3) 教育行政全般に関する懇談について

- ・小規模特認校制度の状況について
- ・若基小学校での無料塾について
- ・GIGAスクール構想の進捗について
- ・通学路の安全点検について

(議長)

それでは、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(事務局より資料を説明。)

(議長)

それでは、今の説明に対してご意見ご質問はないでしょうか。

コミュニティバスの通学への活用について担当課長より説明をお願いします。

(事務局)

コミュニティバスの通学への活用については、定住促進課と教育学習課で協議をしている。コミュニティバスを利用するにあたり小学生の回数券制度がないため、小学生の回数券制度の設定について検討している。

(議長)

小規模特認校制度のもと無料にするという考え方も含めて考えを整理していただきたい。1年生が36人いれば6年生まで2クラスにできるので、小規模特認校制度の活用児童数10名を目標にしたい。

5 その他

(議長)

その他意見はありませんでしょうか。

6 閉会

(その他意見がなかったため閉会。)

～午後0時10分閉会～